

ドニゼッティ作曲 歌劇「ランメルモールのルチア」

170213

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物	見どころ
第一幕 40分		前奏曲		2		
	1	エンリーコの憎しみ	当主エンリーコは、妹ルチアが、アルトゥーロとの結婚を承諾しないので、困っている。 家庭教師ライモントは、母を失ったばかりだから、と言うが、家臣ノンマルノは、雄牛に襲われそうになったルチアをエドガルドが助けて以降、恋仲になっているという。 エンリーコは、エドガルドが憎悪するレーヴェンスウッド家の当主なので許さない。	11	ライモント エンリーコ ノンマルノ	
	2	ルチアとエドガルドが指輪を交換	城内の泉のある庭園でルチアは、この泉にまつわる不気味な亡霊の話のアリーサに聴かせる。 エドガルドがルチアに会いに来るので、見張り役のアリーサは退場する。	14	アリーサ ルチア	ルチアの歌
			夜明け前にフランスへ出発するエドガルドは、ルチアに対して、エンリーコに自分たちの愛を認めてもらおう、と言う。ルチアは、両家が憎み合っていることから無理、と否定する。 エドガルドは、エンリーコに対して憎む気持ちを思いだし、愛と憎しみの間で苦しみつつも、ルチアとの結婚を誓って、指輪を交換する。	27	エドガルド ルチア	
第二幕 40分	1	政略結婚を承諾するルチア	城内の部屋でエンリーコは、エドガルドからルチア宛の「愛が冷えた。」とする内容の偽の手紙を、ノンマルノに書かせる。 そこに部屋に入ってきたルチアは、エンリーコに、エドガルドとの愛を認めてもらおうと努力するが、エンリーコから偽の手紙を示され、激しい悲しみに襲われる。 そして、アシュトン家の窮地を救うためにアルトゥーロとの結婚を懇願されるので、ルチアは不幸を嘆き、泣き崩れる。	23	ルチア エンリーコ ノンマルノ	
			ライモントは、ルチアに対して、ルチアが書いた手紙に返事がないのは、エドガルドの不実を物語るものであり、また、聖職者が祝福しない結婚は良くない、と諭す。 兄の希望を受け入れる寛容さも重要である、と言われ、ルチアは渋々納得する。	7	ルチア ライモント	ライモントの裏切り
	2	裏切られたエドガルド	城内の大広間での結婚式で、ルチアの花婿となるアルトゥーロは、エンリーコに友情と援助を誓う。 そこにルチアが力なく登場し、結婚誓約書に署名する。	7	ルチア エンリーコ アルトゥーロ	
			ルチアの結婚の話聞いたエドガルドが入ってくるので、一同驚く。 エドガルドとエンリーコと憎しみ合う二人をライモントがさえぎるが、ライモントは結婚誓約書をエドガルドに見せて、ルチアとの結婚を諦めさせようとするので、ルチアの立場がなくなる。 エドガルドは指輪を返し、渡した指輪は彼女からひったくり、踏みにじる。 エドガルドは、興奮し自分を殺せと言うが、エンリーコたちは、出て行くことを要求し、追いやる。	17	エドガルド アリーサ ルチア ライモント エンリーコ アルトゥーロ	6重唱 ライモントの裏切り②
第三幕 45分	1	狂乱の場	エドガルドが住むウルフルクの塔の広間にエンリーコがやってきて、二人は明朝に決闘することを約束する。	10	エドガルド ライモント エンリーコ	
			大広間で婚礼の宴が続いているところにライモントが来て、ルチアが悲しみのあまり正気を失い、初夜の寝室でアルトゥーロを刺し殺した、と列席者達に伝えにきた。 そこに青白く生気のないルチアが現れ、夢想してエドガルドに話しかける。 エンリーコは、強引であった自分を後悔するが、ルチアは息を引き取る。	30	ルチア ライモント エンリーコ ノンマルノ	ルチアの歌
	2	後を追うエドガルド	エドガルドは、エンリーコに決闘場所として指定したレーヴェンスウッド家の墓地で待ちながら、一族最後の男を墓に受け入れて欲しいと嘆く。 ライモントからルチアが死んだことを聞き、自分の胸に刃を突き立て倒れ、ルチアの後を追う。	15	エドガルド ライモント	エドガルドの歌

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。